

## 第 4 学 年 図 画 工 作 科 学 習 指 導 案

4 年 2 組 指 導 者 岡 崎 典 子

### 題 材 ゆめのおさかなワールド

#### 1 本題材でめざす子どもの姿について

| 対象と向き合う子どもの姿【対】                               | 自己と向き合う子どもの姿【自】                       | 他者と向き合う子どもの姿【他】                            |
|---|---------------------------------------|--|
| ○形や色などの感じを捉え、「おさかなが棲む楽しい世界」へのイメージを自分なりにもっている。 | ○実現したい思いを表したり、自分の見方や感じ方の広がりを感じたりしている。 | ○形や色などの感じを基に仲間の思いを読み取り、造形的なよさや面白さを感じ取っている。 |

#### 2 めざす子どもの姿を実現するために

本学級の子どもたちは、粘土の感触を楽しみながら、粘土を板状にして立たせ、思い付いたものを立体に表す経験をしている。また、総合的な学習の時間において、川に棲む魚を捕る経験を繰り返しながら「魚が棲む川を守りたい」という思いを抱いている。このような子どもたちが、可塑性のある材料を組み合わせ、表し方を工夫しながら「おさかなが棲む楽しい世界」を想像して立体に表す学習に取り組む。このことは、形や色などに関わり楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養うことにつながるであろう。

本題材は、液体粘土に浸した布などの材料を合わせて固め、「おさかなが棲む楽しい世界」を想像して立体に表す学習である。子どもたちは、材料の形を変化させたり、組み合わせたりしながら、どうすれば「おさかなが棲む楽しい世界」になるか考えていくであろう。その際、一人一人が思いをもって試行錯誤しながら、見付けた表し方について交流することを大切にしたい。そうすることで、自分の見方や感じ方を広げていくことができるようになるからである。

そこで、以下のような支援を具体化し、本題材でめざす子どもの姿の実現を図る。

- 第一次において、液体粘土に浸した薄い布の特性から「川の流れ」という共通の設定を提示する。そうすることで、「おさかなが棲む楽しい世界」をつくりたいという思いをもって、立体に表そうとすることができるようにする。【対】
- 表したいことや表し方について交流する際は、発言についての具体や理由を問い返したり板書で整理して表したりする。そうすることで、形や色などの感じを基に、仲間の思いを読み取り、造形的なよさや面白さを感じ取ることができるようにする。【他】
- 毎時間、自分や仲間の表現の造形的なよさや面白さなどを観点に振り返るよう促す。そうすることで、自分の見方や感じ方の広がりを感じ取ることができるようにする。【自】

#### 3 本題材の目標

- 液体粘土に浸した布などの材料を合わせて固め、表し方を工夫しながら、「おさかなが棲む楽しい世界」を想像して立体に表すことができる。
- 自分や仲間の表現の造形的なよさや面白さなどを感じ取ったり考えたりしながら、仲間と共に鑑賞したり表現したりする喜びを味わうことができるようにする。

#### 4 本題材における評価規準

| 知識・技能(知)   | 思考・判断・表現(思)  | 主体的に学習に取り組む態度(態)                                |
|--|--|---|
| ○形や色などの感じが分かっている。<br>○材料の形を変えたり、組み合わせたりし、表し方を工夫している。 | ○自分のイメージに合う形や色などを考えている。<br>○造形的なよさや面白さなどを感じ取ったり考えたりしている。 | ○進んで表現したり鑑賞したりし、「おさかなが棲む楽しい世界」を想像して表す喜びを味わっている。 |

#### 5 指導計画（全7時間）

**第1次** 液体粘土で布やいろいろな材料を固めて試す（2時間）

**第2次** 「おさかなが棲む楽しい世界」を想像して表す（4時間）【本時3／4】

**第3次** 「おさかなが棲む楽しい世界」を紹介し合う（1時間）

6 本時案 【平成30年11月2日 9:50~10:35 図工室】

(1) ねらい 川の色を様々な試しながら、自分のイメージに合った表し方を見付けることができるようにする。

(2) 学習過程 ※下線は3つの向き合う姿が表れている子どもの意識

| 学習活動・学習内容   | 子どもの意識  | ○教師の支援   |
|---|---|--|
| 1 本時の活動の見通しをもつ。<br>(5分)<br>・表したいこと<br>・表し方への見通し                 | ・ 形が固まったよ。川に色を着けたいな。<br>A 水が透き通ったきれいな川にしたいな。<br>・ それなら、絵の具を薄く水で溶いて着けた方がよいね。<br>・ 絵の具をにじませた方が、川の中の世界を表すことができると思うよ。   | ○絵の具のにじみを試した時の経験を基に、川の色を表し方について話し合う場を設定する。そうすることで、自分のイメージに合った表し方を見付けることへの見通しをもつことができるようにする。【対】 |
| どのような川の色を表し方にしようかな。   |   |  |
| 2 固まった形に色を着ける。<br>(33分)<br>・ 水加減や組み合わせによる色の感じ<br>・ 形を生かした表し方の工夫 | A 透明感のある川って何色かな。<br>・ やっぱり、水色は欠かせないよ。<br>・ でも、白を混ぜると透明感が出ないよ。<br>・ 青を水で薄くしたら、透けてきれいだよ。<br>A 水色だけでは、もの足りないなあ。<br>C <u>水が透明だと、周りの草や木の緑色が映っているよ。緑色ものせたらどうかな。【他】</u><br>B 僕は流れが急な川だよ。岩にぶつかった所は水しぶきを表したいな。<br>A それなら、白色を散らしてみたらどうかな。<br>B いいね。試してみたらいい感じだ。 | ○川の色を第一次で使った材料に試し塗りして班で見合うよう促す。そうすることで、自分や仲間の表現のよさや面白さなどを取り上げたり考えたりすることができるようにする。【他】           |
| 自分のイメージに合う色の表し方が見つかったかな。  |   |  |
| ・ 自分のイメージをまとめること  | A 薄い色を重ねると透明感が出て、流れがゆるやかな感じになったよ。【対】<br>・ ガーゼのしわに沿って色を着けると、さらさらと流れている川みたいだよ。  | ○自分や仲間の表現を見て、「よくなったなと思うところ」を観点に振り返るよう促す。そうすることで、自分の見方や感じ方の広がりを実感することができるようにする。【自】              |
| 3 本時の活動を振り返る。(7分)<br>・ 様々な表し方<br>・ 造形的なよさや面白さ                   | A <u>Cさんと試してみて、水面にいろいろな色の光が映って素敵になったよ。【自】</u><br>B Aさんのおかげで、水しぶきを表すことができ、色を着ける前より流れの速さを感じられる川になったよ。<br>・ ガーゼのしわの形を生かした色の着け方をしているのがよいね。<br>・ 流れの速さから、川の音も感じられるね。   |  |

(3) 板書計画

